



# 人は 神を入れるための 器です

聖書で読み解く人の構成の三部分

Ver. 2.1 | 2020年4月18日更新

# ① 前言

## 日本語訳は「霊・魂・心」についての混同が多い

霊のギリシャ語はプネブマ、魂のギリシャ語はプシュケです。日本語に限らず、正確に訳し分けられていない箇所が多いので、人の三部分を明確に捉えにくいのです。そのため、原文から読み解く必要があります。一般的に馴染みのある新改訳や口語訳から引用したいところですが、かえって混乱を招きそうなので、一番厳格に区別して訳されている回復訳より引用し、注に新改訳2017年版を引用します。

## 「霊」と「魂」の違いを知ることが非常に重要です

クリスチャンとしての深い経験は、「霊」と「魂」の違いを知ることに基づいていると言っても過言ではありません。なぜなら聖書がこう言っているからです：

「しかし魂の人は、神の霊の事柄を受け入れません。なぜなら、彼にとってそれは愚かであるからです。また彼は、それを知ることができません。それは、霊によって識別されるものだからです。（コリント人への第1の手紙 2章14節 | 回復訳）

# 霊・息・風

ヘブル語： neshamah ネシャマー

ギリシャ語： pnevma プネヴマ

赤文字の原文は全部neshamahです。

そして、エホバ・神は土のちりで人を形づくり、その鼻の中に命の息(neshamah)を吹き込まれた。すると人は生きた魂となった。創世記2章7節

→霊と肉体が結合した結果魂が生まれた。

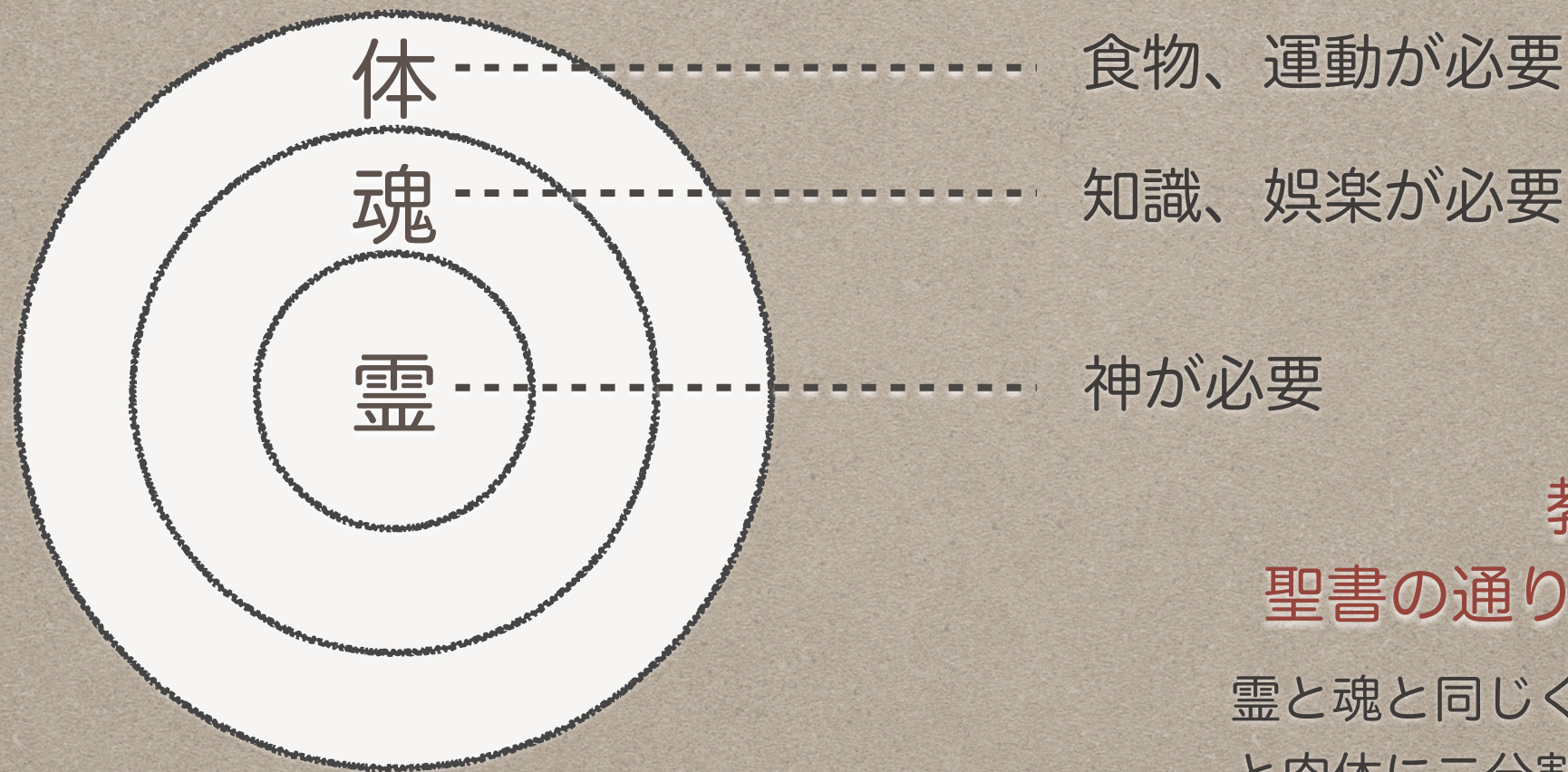
人の霊(neshamah)はエホバのともし火であり、内なる存在の最も深い部分をすべて探る。箴言20章 27 節

→人の体の中に吹き込まれた命の息が、人の霊となった。ともし火には光があってそれを表現するように、人の霊が創造されたのは、神を入れ神を表現するためです。

しかし、人の中には霊があり、全能者の息が彼らに理解力を与える。ヨブ記32:8

→原文の文法的に「人の霊」と「全能者の息」は同義語

## ②人には三部分组成があります



### ■テサロニケ人への第1の手紙 5章23節

そして平和の神ご自身が、あなたがたを徹底的に聖別し、あなたがたの**霊と魂と体**とを守って、わたしたちの主イエス・キリストの来臨の時、完全で責められるところのない者にしてくださいますように。

### 教会初期は

### 聖書の通り三元論が常識だった

霊と魂と同じく精神とみなし、人を精神と肉体に二分割で見るのは異教的な思想の影響によるもので、いつしか教会の中で「常識」になってしまいました。しかし、原文を読めば三部分(三元論)であることは明らかなです。ここでは根拠を列举しませんが、教会初期の多くの古代教父たちの著作においても詳細に論述されています。(byジョシュア)

# ③ 霊は魂と別物です

## 回復訳

### ■ルカによる福音書 1章46～47節

すると、マリアは言った、わたしの魂は主を大きく表現します。私の霊は、神・わたしの救い主の中で歓喜しました。

### ■ピリピ人への手紙 1章27節

…すなわち、あなたがたが一つ霊の中でしっかりと立ち、一つ魂をもって、福音の信仰と共に奮闘しており、」

### ■コリント人への第1の手紙 2章14節

しかし魂の人は、神の霊の事柄を受け入れません。なぜなら、彼にとってそれは愚かであるからです。また彼は、それを知ることができません。それは、霊によって識別されるものだからです。

## 霊と魂が区別されている聖句

## 新改訳2017年版

### ■ルカによる福音書 1章46～47節

マリアは言った。「私のたましいは主をあがめ、私の霊は私の救い主である神をたたえます。

→正確に訳し分けている。

### ■ピリピ人への手紙 1章27節

…あなたがたは霊を一つして堅く立ち、福音の信仰のために心を一つしてともに戦っていて

→魂(プシュケ)と心を混同している。

### ■コリント人への第1の手紙 2章14節

生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらはその人には愚かなことであり、理解することができないのです。御霊に属することは御霊によって判断するものだからです。

→魂(プシュケ)を意識している。

## ④ 霊は魂より深い所にある

### ■詩篇 51篇6節

まことに、あなたは内なる各部分にある真実を喜ばれます。あなたはわたしの隠れた部分に知恵を知らされます。

\*新改訳2017年版では「心のうち」と「心の奥」と区別して訳されていますが、不正確です。心の構成については、のちのスライド「心の各部分」で説明します。

### ■ペテロの第1の手紙 3章3～4節

「あなたがたの飾りは、髪を編んだり、金を身につけたり、衣をまとったりする外面的なものではなく、むしろ、柔和で穏やかな霊を朽ちない飾りとする、心の中の隠れた人です。これこそ、神の御前に極めて価値のあるものです。」

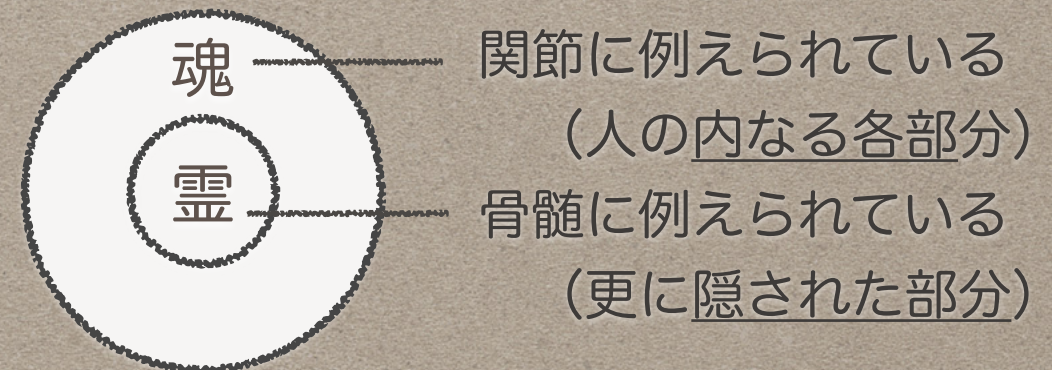
\*赤文字の箇所、新改訳2017年版の訳語は同じ。

### ■ヘブル人への手紙 4章12節

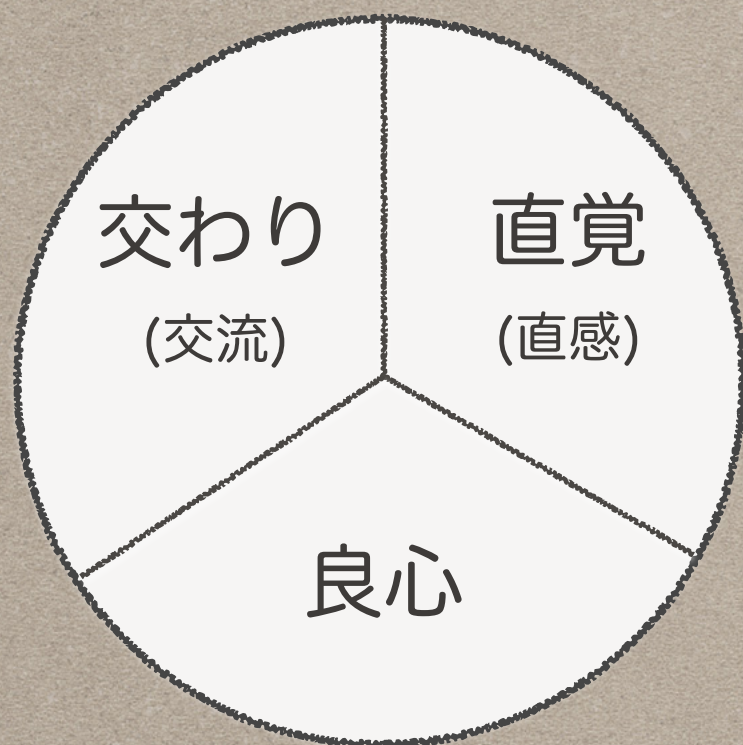
「なぜなら、神の言は生きていて効力があり、どんなもろ刃の剣よりも鋭く、魂と霊、関節と骨髓を切り離すまでに刺し通して、心の思考と意図を識別することができるからです。」

\*赤文字の箇所、新改訳2017年版の訳語は同じ。

骨髓が関節の中に深く隠されているように、霊は魂の深みにあります。骨髓と関節を分けることは、おもに関節を砕くことを要します。同じ原則で、霊と魂を分けるには、魂を砕く必要があります。（回復訳ヘブル4:12フットノート2抜粋）



## ⑤ 霊の各部分



### 良心の代表的な機能

- ① 裁く
- ② 正しさを保つ
- ③ 悔いる
- ④ 硬くなる

#### ■詩篇 34篇18節

エホバは心の砕かれた者たちに近く、  
**霊の中で悔いる**者たちを救われる。

\*新改訳2017年版も類似「霊の砕かれた者」

### 交わりの代表的な機能

- ① 礼拝する
- ② 仕える
- ③ 祈る
- ④ 神の中で喜ぶ

#### ■ヨハネによる福音書 4章24節

「神は霊であるから、彼を礼拝する者は、**霊と真実の中で礼拝**しなければならない。」

\*新改訳2017年版は誤訳「御霊と真理によって礼拝し」。神の霊(御霊)ではなく人の霊、もしくは神の霊と混ざり合った人の霊を指す。

### 直覚の代表的な機能

- ① 魂が知り得ないことを知る (神のみこころをじかに感じ取る)
- ② 深くため息をつく、うめく

#### ■マルコによる福音書 2章8節

するとイエスは直ちに、**ご自分の霊の中で**、彼らが内心そのように論じているのを**完全に知って…**

\*新改訳2017年版も類似：「ご自分の霊で見抜いて」(意訳)

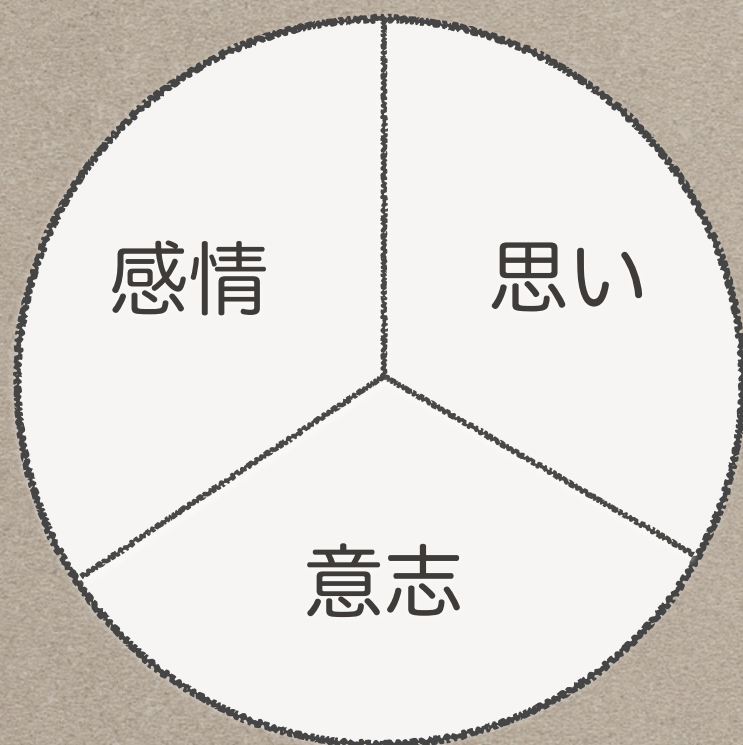
### 根拠となる御言のまとめ

<良心> ①裁く：1コリント5:3。②正しい：詩篇51:10。③悔いる：詩篇34:18。④硬い：申命記2:30。

<交わり> ①礼拝する：ヨハネ4:24。②仕える：ローマ1:9、7:6。③祈る：エペソ6:18。④神の中で喜ぶ：ルカ1:47。

<直覚> ①魂が知り得ないことを知る (神の御旨をじかに感じ取る)：1コリント2:11。②霊の中で知る、深くため息をつく、うめく：マルコ2:8、8:12、ヨハネ11:33。

## ⑥魂の各部分



### 感情の代表的な機能

- ①愛する
- ②憎む
- ③悲しむ

#### ■雅歌 1章7節

わたしの魂の愛する方、わたしに教えてください。

\*新改訳2017年版も類似：  
「私のたましいの恋慕う方」

### 思いの代表的な機能

- ①知識を理解する
- ②思考する
- ③思い起こす

#### ■箴言 2章10節

それは知恵があなたの心に入り、知識があなたの魂に楽しみとなるからである。

\*新改訳2017年版も類似：  
「知識がたましいに喜びとなる」

### 意志の代表的な機能

- ①選ぶ
- ②拒む
- ③決定する

#### ■歴代志上 22章19節

今こそ、あなたがたの心と魂を定め、エホバ・あなたの神を求めなさい。…

\*新改訳2017年版も類似：  
「心とたましいを傾けて」

### 根拠となる御言のまとめ

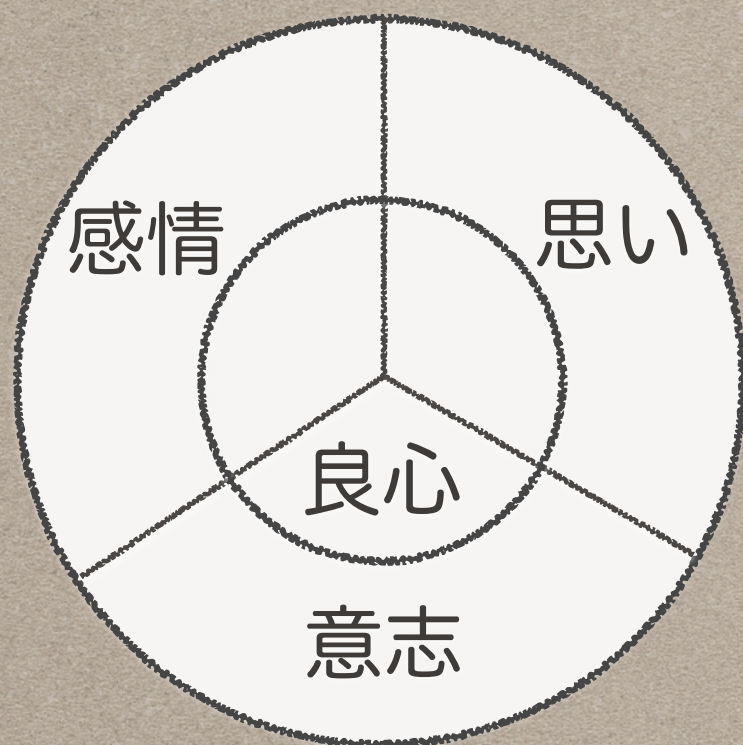
<思い>①知識：箴言2章10節、箴言19章2節、24章14節、詩篇139篇14節。②熟考する：詩篇13篇2節。③思い起こす：哀歌3章20節。

<意志>①選ぶ：ヨブ記7章15節。②拒む：ヨブ記6章7節。③決定する：民数記30章（自分を拘束するx10：文字通り、魂を縛る）、歴代志上22章19節、詩篇27:12、41:2、エゼキエル16:27。

<感情>①愛：雅歌1章7節、サムエル記上18章1節、詩篇42篇1節。②憎しみ：サムエル記下5章8節、詩篇107篇18節、エゼキエル書36章5節。③悲しみ：サムエル記上30章6節、士師記10章16節。④喜び：イザヤ書61章10節、詩篇86篇4節。⑤願望：サムエル記上20章4節、申命記14章26節、エゼキエル書24章25節、エレミヤ書44章14節。

## ⑦心の各部分

魂＋霊の良心（漢字に全て「心」がついている）



### 思い（思）

■マタイによる福音書 9章4節  
イエスは彼らの思いを知って言われた、「なぜあなたがたは、**心の中で**邪悪なことを**考えているのか？**」

\*新改訳2017年版も同じ。他に創世記6:5、ヘブル4:12など。

### 意志（意）

■使徒行伝 11章23節  
…**心に決意して**主にとどまるようにと、彼らをみな励ました。

\*新改訳2017年版も類似「心を堅く保って」。他にヘブル4:12(心の思考と意図)など。

### 感情（感）

■ヨハネによる福音書 16章22節  
…その時、あなたがたの**心は喜ぶ**。そしてあなたがたの喜びを、あなたがたから奪い去る者はいない。

\*新改訳2017年版も類似：「心は喜びに満たされます」

■ヨハネによる福音書 16章6節

…**心は悲しみ**で満ちている。

\*新改訳2017年版も同じ。

### 良心

■ヨハネによる第1の手紙 3章20節

…わたしたちの**心が私たちをとがめるとしても…**

\*新改訳2017年版も類似：「心が責めた」

■ヘブル人への手紙 10章22節

わたしたちの心はすすがれて**邪悪な良心**から離れ、体は清い水で洗われ、**真実な心**で、信仰の全き確信を持って、至聖所に進み出ようではありませんか。

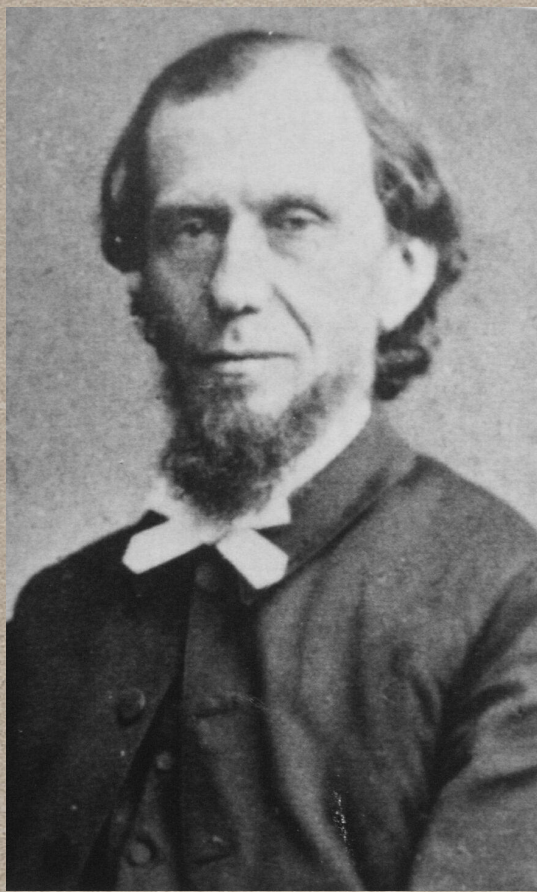
\*新改訳2017年版も類似：「邪悪な良心」「真心」



## 歴史的な視点

聖書学者たちの著作より（一部のみ）

# ANDREW MURRAY (1828-1917)



画像：Wikipedia

*"One of these realities—for Divine Truth is exceeding rich and full and has many and very diverse applications—one of these realities shadowed forth by the Temple, is man's three fold nature....Man is God's temple. In him, too, there are the three parts. In the body you have the outer court....Then there is the soul, with its inner life, its power of mind and feeling and will. In regenerate man this is the holy place.... Man has not only body and soul, but also spirit. Deeper down than where the soul with its consciousness can enter, there is a spirit-nature linking him with God. "*

*(The Spirit of Christ Chapter 24, 159-160)*

# ANDREW MURRAY (1828-1917)

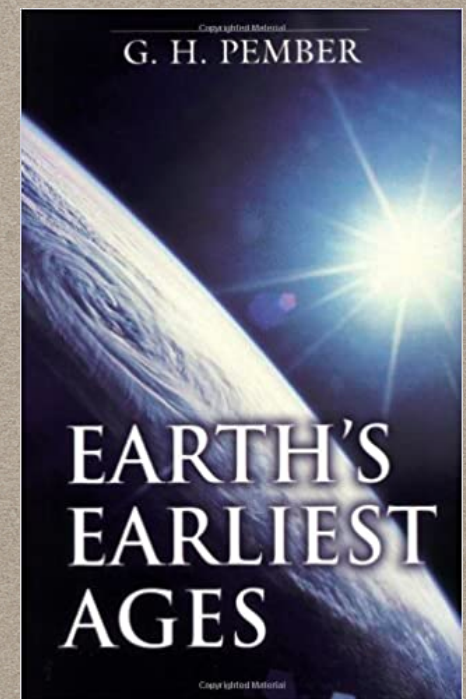
*"In the constitution of these three parts of man's nature, the spirit, as linking him with the Divine, was the highest; the body, connecting him with the sensible and animal, the lowest; intermediate stood the soul, partaker of the nature of the others, the bond that united them, and through which they could act on each other." A note on "The Place of the Indwelling" (Chaps. 6 and 29 of The Spirit of Christ)*

# G. H. PEMBER (1837-1910)

*"Now the body we may term the sense - consciousness, the soul the self - consciousness, and the spirit the God - consciousness. For the body gives us the use of the five senses; the soul comprises the intellect which aids us in the present state of existence, and the emotions which proceed from the senses; while the spirit is our noblest part, which came directly from God, and by which alone we are able to apprehend and worship Him." (76-77)*



画像：Wikipedia



画像：Amazon.com